

コンケン大学での居候生活 (22)

伊藤信孝

コンケン大学客員教授・工学部

長期に亘るコロナ禍で直接開催地を訪れ、顔と顔を合わせて話しをする機会は殆どなくなり、もっぱらオンラインでの開催が日常化している。本報では最近偶然にも参加の機会を得た国際学会「**SIGNAL 2021**」について報告する。本件については本報に先立ち、一部を既述したが、イベントの閉会を機に再度加筆報告する。

本イベントへの参加に至った経緯についてもいくらかは紹介したが、あらためてもう少し追加情報を紹介して、このイベント参加を通じて新しく知り得た内容について記述する。

まずは本イベント参加に至る経緯であるが、筆者自身から積極的にアプローチしたわけでもなく、偶然筆者のアカウント宛てに配信されたメールの内容を目にしたことから始まる。初めは気にも留めなかったが、よくよく内容を見て見ると国際学会参加へのアナウンスであり、筆者自身への参加発表を促すのみならず、多くの参加者を募りイベントを盛りあげたいので協力して欲しいとの依頼をも含んでいた。そもそも **SIGNAL 2021** というイベントについても予備知識は無く、内容についても知り得る所は全く無かった。筆者なりに予想した内容は、おそらく「信号処理」というカテゴリの学会であろうとの認識であった。この予想は当たらずとも遠からずで、ほぼ的を得た予測であった。メールの内容は5月末から6月初めに掛けてスペインのバレンシアで開催する予定であるが、より多くの参加者、論文発表者を期待しているが、なかなか思うようには進んでいない。ついては貴方自身の参加、論文発表も歓迎であるが、現在の企画委員会メンバーに加えて委員になって頂き、このイベント開催のアナウンスを貴方のネットワークを通じて配信して参加応募を呼びかけて欲しいと言う趣旨であった。筆者自身は農業工学が専門であり、情報処理や通信、信号処理が主たる専門分野でないので、「アナウンスの配信の協力はするが、専門も異なるので期待されるほどの人数を集められるかどうかは極めてむずかしい。努力をしても応募者はゼロかも知れない。また参加登録費も高価で、アナウンスに依れば600米ドルと言うのでは、余程のメリットがないと参加へと心を促すには難しい。」と付け加えた。知り得る知人や非営利団体などのネットワークを通じて配信を依頼したが、反応は殆ど無く、筆者が予測した様な結果になるのではないかと懸念していた。焦る心を抑えながらも、いくらかでも参加の意思を表す希望者が現れて欲しいと毎日願っていたが、締め切りが来ても最初の予測通り一人の応募者も現れなかった。「やはり、そうか」と自分なりに納得(?)したが、依頼を応諾した背景もあって、その依頼に答えられなかったと言う、責任感と悲壮感に罪悪感が入り交じった複雑な気持ちが前面に立ちこめる状況であった。このような結果になった事に

対してせめて何かいくらかでもお返しができるほどの気持ちは残った。しかし専門も異なる自分が手を挙げるほどの勇気は無かった。ここはひとまず自分の努力不足を素直に謝り、事情を説明して受け入れて頂くしかない。意を決してその旨を記し、素直に詫がるメールを送信した。ついでにその努力不足の言い訳をカバーする為に、これまで他の国際学会で発表したビデオ（約15分ほど）を添付し、「私の専門分野は農業工学であり、もとより情報通信、情報処理とは異なる。しかし近年の高度情報化、宇宙時代を迎え、それらの高度技術は農業分野でも応用され、急増する人口に対する食糧問題に対しても、コミュニテイ・ベースの未来農業の発展に不可欠の技術としても重要である。」と付け加えた。まさか反応があるとは思わなかったが、翌日異例の速さで、「農業分野への応用という点ではわれわれの方も重要視している。もし差し支えなければ協力すると思って参加為て貰えないか」と言う問い合わせの打診があった。上記した責任感、罪悪感も手伝い「では一つやってみるか」と言う方向に心が動いた。Tutorial か Keynote speech のどちらのセッション (Session) での発表かと言うことであったが、結果として Keynote speech (基調講演) と言う事になった。筆者としてはどちらでも良かったが、広く自分の専門分野を紹介し、大学に於ける Holistic Engineering (総合工学) の教育の重要性を紹介すると共に、「なるほど農業分野ではこのような応用が成されているのか」と言う異分野での研究者への啓発につながるこの効果の大きさから考えても、この結果は良かったと判断している。

ところで、このイベント参加に鑑み、新たに気付かされたことを記述したい。イベントの名称が SIGNAL 2021 とあるが、これは母体とも言うべき InfoSys 2021 の1分科会で、他にもいくつかの分科会があるらしい。イベントの企画と主催はオンラインと現地参加のハイブリッド方式で企画されており、コロナ禍の状況によりどちらかへの参加を選択できる。以下にイベント参加に於ける、他のこれまでの一般の国際学会と大きく異なる部分について特に記したい。筆者の参加資格は基調講演者であるが、一般に招待講演者の場合は、現地往復の交通費、参加期間中の宿泊費、飲食費、会場までの交通費似加えて参加証明書、時には謝金などが招く側から支給されるのがこれまでの対応であると認識して居るが、近年では必ずしもその様な方式でのイベント企画は様相を変えていると思われる。招待講演であっても、その社会的身分（筆者の場合は大学教授、他にも企業人、学生・院生など）によっていくらか差があるが、決して無料というわけではない。ちなみに冒頭に書いたが、今回のイベントでは参加登録費用が一般人で一人当たり600米ドルと高価で、筆者の場合は大学教授と言うことで730米ドルであった。従来方式のように、企画側が偉い人を無料で、あるいは逆に謝金を支出して招いて、講義を拝聴する」というのではなく、むしろ偉い人の側がそれなりの費用を支出負担、サポートするのが新しい(?)方式のように見える。もちろん学生等の参加登録費はそれなりに低料金である。当初はこの様な事を知らぬ筆者は、イベント・アナウンス配信の成果がなかった事への責任感もあり、

多少なりとも参加登録費を支払いたいと申し出たが、アナウンスにあるように「参加者全員が参加登録費は負担する」事になっている、と言う事で上記の様に筆者も支払う結果になった。

またイベント開催に先立ち、論文、講演録画ビデオ、PPT資料、講演者の簡易履歴書を期限までに提出する事になっている。一応イベントの開催開始から閉会に至る迄のプログラムはあるが、オンラインでの参加者（招待講演者を含む）は上記の提出物を期限までに提出すれば、その後の手続きは全く無い。プログラムには上記の提出物を期限までに提出した発表予定者の情報がまとめて掲載されており、聴講する側はいつでも都合の良いときに各自がアクセスしビデオ講演を聴くこともできる。したがって講演者は決められた時間までスタンバイして、発表の準備をする必要は無い。聴講者が質問などがある場合は直接、講演者のメールに直接アクセスして個人的に質問する。開会式も閉会式も時間があり、都合の付く者のみが参加し、総出無い者はその必要は無い。提出期限までに提出資料を準備出来なかった講演者には日時を定め、ズームID、パスコードが付記してある。筆者に取っては初めての経験であり、従来の方式が頭にあったので、時差を勘案し更なる最新の注意を払ってスタンバイしようと考えて居た矢先、スタンバイの必要が無い事を知った。従来の方式と今回の方式のどちらが良いかと言う判断は即座にはできないが、「なるほど、このような方法もあったのだ」と気付かされた。コロナ禍での新しいイベント企画と言えよう。

ここで筆者のこの種のイベントへの参加の姿勢を説明しておく。今回は専門が異なる分野でのイベントで、最初から参加の意思はなかったが、アナウンス配信の結果、参加希望者を集める事が出来なかった責任感もあり、参加については謝罪と共にお断りをしたが、相手側からの要請に、敢えて応じる偶然の対応となった。しかし一般に「なぜ高額な参加登録費を支払ってまで参加するのか」という問いに関しては、基本的に以下の考えによる。

- 1) 学祭的分野への積極的参加と知識吸収により、技術の社会的ニーズ、動向についての情報入手と方向付けの予測と準備
- 2) またそれら知識、情報、技術の、次世代の若者への分野的領域拡大の機会を与える。

以下に目的の一つである情報の公開・共有のために、今回のイベントの総括プログラムを掲示する。

学者、研究者の中には、著作権を理由に情報公開、共有をかたくなに固辞、拒否する姿勢が多く見られるが、著作権があるのなら、むしろ積極的に公開、共有するのが筋である。しかし公開すると盗まれると言う懐疑的な空気の前での対応では、如何に優れた成果や業績であっても意味はない。この趣旨に基づき、委員会から送付の総括プログラムを以下に示す。

Dear All (配信者である筆者からの英文メッセージ)

This email is a compilation of the programs of the international conference SIGNAL 2021 held in Valencia, Spain from the end of May to June 3, 2021. This is my first time attending this event, so I don't know much about it, but I happened to have the opportunity to attend and give a lecture. We have already distributed some of this information to some people, but at the same time as the closing on June 3, we were able to obtain a summary of the program by sending it from the Planning Committee. Since the target fields are diverse, such as sensing, data collection, processing, automation, control, and robots, we believe that it would be extremely beneficial if we could spread it to as many people as possible and use it effectively in each specialized field.

I understand that this event is one of the InfoSys 2021 subcommittees (sessions). The event was planned as a hybrid of online and local site participation, but from the situation of the COVID-19, corona disaster, it can be inferred that there was little local participation. Online participants could be accepted by sending a brief CV, Paper manuscript, PPT material, and pre-recorded video to the Organizing Committee by a set date, and all procedures would be completed and the speaker could be officially registered and finally approved. Speakers don't have to stand by for presentation at the scheduled date and time, and speaker can freely browse the lecture presentations, papers, and his/her CV by clicking the name of the speaker, which is all included and summarized in this program herewith. I would appreciate it if you could spread the information to as many people as possible and share the information. Q&A to each speaker can be done by the email based direct contact to the speaker.

Original Japanese version

このメールは、5月末日より6月3日までスペインのヴァレンシアで開催の国際会議 SIGNAL 2021 のプログラムを集約したものです。私もこのイベントに参加するのは初めてですので、あまり存知ませんが、偶然にも参加して講演する機会を得ました。すでにいくらかの方々にはこの情報の一部は配信させて頂きましたが、6月3日の閉会と同時に、委員会責任者からの送付により、プログラムのまとめを入手することができました。いわゆる信号処理であるセンシング、データ収集、加工、解析、自動化、制御、ロボットなど対象分野が多岐に亘るため、より多くの皆様に拡散して有効に、それぞれの専門分野でご利用頂ければ極めて有益と考えます。

本イベント (SIGNAL 2021) は InfoSys 2021 の分科会の一つと理解しております。開催はオンラインと現地参加のハイブリッド方式で企画されて居ましたが、コロナ禍の状況から、現地参加は少なかったかと推察します。オンラインでの参加者は決められた期日までに、簡単なCV、論文、PPT資料、予め録画したビデオを企画委員会に送付して受理されると、それで全ての手続きは終わり、発表者は決められた日時に自分の発表

のためにスタンバイする必要は無く、ここにまとめたプログラムに全てが収録されております。

Q&A は全てメールで直接講演者にコンタクトして質問し回答を得ると言う方式です。のプログラム中の LIVE とあるのは期日までに所定の講演資料を提出できなかった講演者が Zoom で講演する場合の予定日時と ID, パスコードを示します。後日発表の内容は追加される予定です。

講演者をクリックすれば自由に講演発表、論文、CVを参照することができます。できるだけ多くの方に拡散頂き、情報共有頂ければ幸いです。

InfoSys 2021: Program Posted

sent from logistics

Dear Chairs, Speakers, Contributors, and Committee Members,

The program for the InfoSys 2021 Congress and the DataSys 2021 Congress is now posted with links to presentations, videos where available, and direct link to the articles in the ThinkMind Digital Library. The program sites will be permanently available, so feel free to access the material at your leisure. Any additional material that arrives will be added to the program

<https://www.iaria.org/conferences2021/ProgramICNS21.html>

For the colocated congress, DataSys 2021, the program is available at:

<https://www.iaria.org/conferences2021/ProgramAICT21.html>

We would like to thank everyone involved in this event. There are still some challenges that we face as we try to get back to normal on site conferences. The event will be a mix of on site, live events, and presentations available online.

To that respect we would like to point out two scheduled live events:

1. A Quantum Statistical Mechanical Modeling Approach to Human Cognitive Interaction with Cyber-Systems

Prof. Dr. Mark J Balas, Texas A&M University, USA

Time: Jun 2, 2021 10:00 AM Central Time (US and Canada)

link: <https://tamu.zoom.us/j/98718021733?pwd=dVExZnUzWm1HS0dkMWVGZVlDeVlkUT09>

Meeting ID: 987 1802 1733

One tap mobile

+13462487799,98718021733# US (Houston)

+16699006833,98718021733# US (San Jose)

Contact email: mbalas@tamu.edu

2. Control of Synchronization Patterns in Complex Dynamical Networks

Prof. Dr. rer. nat. Dr. h.c. Eckehard Schoell, Institut für Theoretische Physik, Technische Universität Berlin, Germany

Tuesday, 1 June 2021 at 15:00 CEST (3:00pm Berlin Time)

<https://tu-berlin.zoom.us/j/7665842303?pwd=TS8vejhlS0ZPbzFaTGlvTldXKzhaQT09>

Meeting ID: 766 584 2303

Contact email: schoell@physik.tu-berlin.de

We hope that you can make time for these presentations.

Best wishes,

IARIA Logistics

sue@iaria.org